

平成 28 年度 第1回江南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	平成 28 年 7 月 28 日 (木) 午後 1 時 30 分から午後 2 時 50 分まで
会 場	江南区役所 3 階 302 会議室
出席者	江南区自治協議会委員 24 名 教育委員:齋藤教育委員、伊藤教育委員 事務局:教育長、教育総務課長、地域教育推進課長、学校支援課長補佐 亀田地区公民館長、亀田図書館長、江南区教育支援センター所長 他 2 名 江南区役所:地域課長 傍聴者:0 名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶(齋藤教育委員、伊藤教育委員) 3 平成 28 年度教育委員会の施策について(教育長) 4 意見交換(司会 江南区教育支援センター所長)
自治協委員	横越コミ協では県道の街灯の清掃活動を行っており、今年は 8 月に中学生 37 人、学校職員も 14 人、コミ協から 6 人参加してくれる予定。目的は明るい地域づくりと多世代交流であるが、昼食は地域の茶の間のメンバーが作り、食べながら交流する。 自治協提案事業のワークショップでの子どもたちの声を受け、昨年度から実施している。その他、施策にもあるように横越の「お宝発見事業」として地域の阿賀野川、小阿賀野川の自然を訪ね活動を行う。
自治協委員	亀田小コミ協では事業への募集を、学校を通して声をかけている。親子で参加するふれあい散策会は250人にもなり年々増加している。 亀田まつり甚句流しは254人参加する。祭りに向けたお囃子講座は親子のみならず様々な人が参加している。参加者が増えると予算面も心配であるが、今後も親子で参加できる事業を考えていく。
自治協委員	23年度から自治協提案事業として各コミ協と小学生が土地の地盤高の測定を行い、区内167か所に表示板を設置した。 災害弱者の小学生も中学生になると助ける立場になり即戦力になるという考えのもと、25年度より亀田西中学校でレスキュー隊の訓練を始め全学年終了した。 亀田西小コミ協では6月25日に阿賀野川の水害を想定した、地域特性にあった防災訓練を小中学校と一緒にいった。レスキュー訓練は90分ルールが設定されたので、90分は必要だということを学校側も認識し、安易に訓練を終了しないよう、教員にも熱意をもって取り組むよう、教育委員会からも指導をしてほしい。
教育委員会 事務局	防災教育については、中学校ごとに連携して地域の特性にあったプログラム策定を進めているところ。 教員への意識改革は機会を捉えて行っていきたい。
自治協委員	早通小コミ協では、ふれあいスクールで地区の係がボランティアとして参加して

自治協委員	<p>いる。歩け歩け交流会やスポーツ教室など、コミ協事業を多数行っている。</p> <p>小中一貫校のパイロット指定校となった。今後も地域・学校・教育委員会との連携が必要であり、教育委員会からの協力をお願いしたい。</p>
教育委員会事務局	<p>小中一貫校については、取組を開始したばかり。9年間の一貫した教育の中で成果を出せるように検討していきたい。</p>
自治協委員	<p>小中一貫教育に関係して、学校評議員の会議を小学校・中学校と別々に開催している地区もあると思うが、合同で開催した方が一度に情報共有もできて効率的。</p>
自治協委員	<p>中学校で給食の残量が結構多いと聞いた。教育委員会で、市全体の問題として認識しているか。</p>
教育長	<p>できるだけ残量が出ないように配膳の工夫などもしている。小学校・中学校それぞれで給食の残量調査を行い、減らすように進めている。引き続き対応していくよう担当課に伝える。</p>
自治協委員	<p>学校の大規模改修が行われる予定だったが、今年度に入って取りやめとなったと聞いた。現在、どのような状態なのか。</p>
教育委員会事務局	<p>小学校のスクールバスは2代目で20年たって老朽化しており心配している。阿賀野川の対岸地区の中学生は、冬期のみ住民バス(横バス)を利用しているが、住民バスの運行ができなくなりそうである。教育委員会として代替策を考えているか。</p>
教育委員会事務局	<p>大規模改修については、市としては予定を組んでいたところ、国の補助内示が示されず、今年度見送りとなった。機会を捉えて国へも要望を行っていく。</p>
自治協委員	<p>スクールバスの更新については買い替えかリースかなど検討していく。</p> <p>阿賀野地区について、スクールバス利用は基本的に統合の条件での運行に限る。中学校の通学区域は6キロという国、市の方針もあり、徒歩が基本なのでスクールバスを教育委員会で用意することは考えていない。</p> <p>住民バスが継続できないかもしれないという話は聞いているが、何か方法があるかなど区の方とも相談させていただきたい。</p>
教育委員会事務局	<p>よりよい地域づくりの観点から、地元で愛着を持った子どもを育成する「大好きにいがた体験事業」はよいと思うが、どの事業も地域格差が大きいと感じるし、人材不足を感じる。</p> <p>公民館のコミュニティ・コーディネーター養成講座をもっと公にしたり、誰でもいつでも教育を受けられる機会をオープンにしていく必要があるし、大人を含めた人づくりがこれからの大きな課題だと思う。公民館の役割は大きいので頑張ってもらいたい。</p> <p>高齢化社会を見据え、学びの拠点として「学校」が大事になってくる。例えば学校の環境教育の講演会の参加を声かけしていくなど、地域にオープンな学びの場の提供が必要。</p> <p>「子ども」も「学校」も「地域」も、すべてが元気になることが目標。学校が地域の身近な学びの拠点として講演会や教室を開くなどし、子どもと大人と一緒に話を聞いて意見交流することで、子どもも地域の将来を考えることができるし、大人も子どもから願いを聞くことができる。</p> <p>ボランティアに入っていたいただいた人の特技や技術なども、他の人から見たら身近</p>

	<p>な学びになる。</p>
自治協委員	<p>地域教育コーディネーターとして。地域への声かけはやってはいるが、発信自体が遅れ気味。学校の計画の立て方を見直していただければ、早目の準備ができ、地域からの参加も増えると思う。</p>
教育委員	<p>公民館事業のふれあいスクール(学校への出前型)を見てきた。学校の中で和紙作りを学ぶ場で大人に子どもが声をかけていた。大人が子どもたちと関わるのも目的であり、学校で大人が学ぶのもよい刺激になる。</p> <p>学・社・民の連携でいろいろなところが学びの場になるとよいと思う。</p>
教育委員会事務局	<p>「大好きにいがた体験事業」の紹介。</p> <p>この事業は「ひと」と関わることを重要視している。「地域を知る」だけで終わらず、地域の魅力ある人とかかわって地域をよくしたい、一緒に頑張りたいという実感を伴う学習を目指している。</p>
教育委員	<p>先日行われた総合教育会議でも、「大好きにいがた体験事業」に期待している声が多かった。</p> <p>地域との結びつきがより強いものとなるように、事業を実施してもらいたい。</p>
自治協委員	<p>地域教育コーディネーターとして。地域への発信が遅れ気味なのは、学校から事業計画をもらうのが、実施予定の直前ということが原因としてある。おおよその年間計画でもよいので、早めに提示してもらいたい。</p> <p>中学校のボランティア室を会場にして、公民館の出前講座を実施する予定。実施は公民館任せであるが、学校を知ってもらうよい機会となると思う。</p>
自治協委員	<p>事業計画の提示の遅れは教師の多忙にも原因がある。予定がびっしり埋まっていて余裕がない中で、いろいろな対応に追われており、地域教育コーディネーターにも連絡が遅くなる悪循環となっている。</p> <p>教師にゆとりを持たせることが重要と考える。</p>
教育長	<p>教員の多忙化解消は教育委員会としても一つの大きな課題。多忙化解消プランを策定して改善はされてきているが、課題も増えており現場は大変と思う。</p> <p>カウンセラーを数か校に1人配置し、事務職にも手伝ってもらうなど「チーム学校」として多忙化解消を目指す。</p>
議 事	<p>5 江南区自治協議会会長挨拶</p> <p>各コミ協単位で日頃から活発に活動されている様子がわかり感心した。地域が頑張っていると教職員も仕事量が増えるのかなと心配したりもするが、学校あつての地域、地域あつての学校である。</p> <p>人口減少社会の中で学校統合も増えてくると思うが、私自身学校を統合した地域に住んでおり、さびれていく感じがする。その状態が限界集落を作っていくのだと思う。</p> <p>地域も学校を愛していると思うので、教育委員会も子どもたちのためよろしく願いたい。</p> <p>6 閉会</p>